

本日の例会（第2455回） 令和3年10月12日(火)

予定行事



★卓話 テーマ「ひとりごと」

卓話者：弓田 浩司 会員

略歴：入会年月日：2010年11月2日

生年月日：1964年4月4日

職業：株式会社ライク 取締役社長

職業分類：貿易業

ロータリーでの活動歴

2010～'11年度 親睦活動委員

2012年度 副SAA

2013～'14年度 職業奉仕委員長・副SAA

2015年度 副幹事

2016年度 第48代 幹事

2017年度 親睦活動副委員長

2018～'20年度 青少年奉仕委員長・副SAA

2021年度 SAA

趣味：ゴルフ、旅行、音楽

混迷の時代に生きた私



田中 潤治

(前回のつづき)

1929年（昭和4年）私の生誕の年であります米国下院議員ホーリー・スムートが「ホーリー・スムート法案」を連邦議会に提出いたしました。これはアメリカの企業の利益を大幅に上げるため超高率の関税を掛け、外国製品をアメリカ市場から閉め出すためのもので、このような法律が通ったため世界の貿易は麻痺し、不景気になることが確実となり株式が大暴落、大不況となりました。世界中の国が報復措置を取り1年半で25カ国がアメリカの製品に対する関税を引き上げたところ世界大恐慌となりました。この原因是、ホーリー・スムート法により、アメリカは自由貿易を捨て、ブロック経済となり、これに対抗して大英帝国及びその植民地も1932年ブロック経済を行うことを決定いたしました。絶体絶命の窮地に立たされたのは第一次大戦の敗北により全ての植民地を失い、1,320マルクの巨額賠償金を払い続けたドイツでした。

ブロック経済により貿易は封じ込まれ、不況による超インフレと失業者を増やし、経済的苦しみを解決するとして現れたのがヒトラーのナチス労働党であります。彼は賠償金の支払いを放棄し、社会主义的政策を方針として自給自足の可能な国を建設するための戦争に備へました。ドイツ、イタリアそして日本の様に「持たざる國」では持てる国英米の経済ブロック化に對抗する国家主義化が国民の支持を得ることなり、戦争に追い込む経済体制となり、英米は日本が戦争を仕掛けてくるのを待っていたかの様に1924年米国の絶対的移民法の成立を盾に、新たな開拓を求めるアメリカは中国大陸に進出を目論み、日本の追い出しに掛かりました。日清戦争後日本は朝鮮半島を完全な独立国として世界に認めさせる事、そして遼東半島と台湾を清国から日本に割譲すること条件として講和を締結し朝鮮半島を大韓帝国として認められるよう活動致しました。ところがロシアが干渉を始めアジア大陸へ南下して、満州や朝鮮はロシアの領土であると宣言し、また清国も日本との条約を無効にすることを願い、可能なら如何なる報酬も惜しまないと言い出し、ドイツとフランスが東洋の平和を目的に、ロシアと呼応して遼東半島を清国に返すよう要求してまいりました。

(裏面につづく)

次回例会のお知らせ [第2456回・令和3年10月19日(火)]

★皆出席表彰

★お食事はミリオンランチです。

★卓話

★例会場 4F 真珠の間

・卓話者：高士 誠司 会員

・テーマ：「クラブビジョンについて」

★10月26日(火)、11月2日(火)は休会です。

前回の例会（10月5日）

- ・来客紹介 0名
(2660地区内 0名・地区外 0名・ゲスト 0名)
- ・出席報告

例会回数	第2446回	第2447回		第2454回
例会日	7月13日	7月20日	令和3年8月3日から9月28日の6回の例会は新型コロナウィルス感染防止の為、休会となる。	10月5日
会員総数	28名	28名		27名
出席免除会員数	4名	4名		4名
欠席会員数	9名 (内、出席免除会員数) (3名)	7名 (1名)		4名 (0名)
出席率	76.00%	77.78%		85.18%
修正出席率 (メキヤップ数)	—	—		—

・ラッキーくじ

賞品名 『国産まつたけ』

賞品提供者 妙中 茂樹 会員

当選者 岡本 吉弘 会員

井上 芳郎 会員

参加者数 21名

・卓話

テーマ「ガバナー講演」（録画上映）

卓話者：国際ロータリー第2660地区ガバナー

吉川 秀隆 氏

会員名 ニコニコ事由

全出席者（23名） =がバナーをお迎えして。

最上 次郎	=誕生日（8月）
妙中 茂樹	=誕生日（9月）
高士 誠司	=誕生日（9月）
芦谷 裕一	=誕生日（9月）
古市 仁	=誕生日（10月）
小嶋 敦	=誕生日（10月）
隅防 嘉之	=誕生日（10月）
古市 仁	=32力年皆出席
河合 秀行	=27力年皆出席
三宅 有	=17力年皆出席
芦谷 裕一	=14力年皆出席
最上 次郎	=5力年皆出席
岡本 吉弘	=2力年皆出席
古市 仁	=田中潤治さんのご冥福と安らかな旅を祈念して。
平林 武昭	=田中潤治さん、残念、ショック！
高士 誠司	=田中潤治会員、色々とお世話になりありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。ゆっくりして下さい。
松浦 正吉	=ラッキーカード当選（7/20）
最上 次郎	=ようやく例会再開しました！よろしくお願い致します。
尾下 千明	=皆様お久し振りです。コロナとんでけ！
弓田 浩司	=卓話当番

本日計 95,000円／総合計 230,000円
(目標 1,300,000円)

ご協力有難うございました。

（表面のつづき）

要求を拒否すればこの三国と戦争になることから止むを得ず遼東半島を清国に返すと同時にイギリスは威海衛と九龍青島を割譲しドイツは膠州湾占領しロシアは何と日本から返還させた遼東半島の旅順、大連を租借し、満州は全てロシアの領土となりました。

三國の干渉後、ロシア海軍が遼東半島沿岸や朝鮮西海の制海権握ったことは、日本の防衛に大変な脅威となりましたが、日本がロシアに勝てる可能性は万に一つもない、日本政府も、他の欧米諸国もそう思っていたが、世界に冠たる大英帝国から有色人種の小国・日本と日英同盟の提案があり喜んでこれに応じました。同盟とは言っても、はるばる遠方からイギリス軍が援軍に来るわけでもなく、武器の供与もないが大英以帝国がロシアに対して圧力をかけてくれれば、ロシア軍の動き鈍くなるとの思いから1902年世界の常識を覆し、ロシアとの開戦を目的に日本は英國と同盟を結ぶこととなりました、この同盟に日本を恐れて解消を計画し、裏方の役割を果たしたのは中国大陆進出を最大の目標にしていたアメリカである。日本を第一の仮想敵国とみなし精力的に運動して1921年に開催されたワシントン会議において日英以同盟は解消されることになりましたが、1904年、国家の存亡をかけた日露戦争に日本は開戦しました。当時世界最強と言われたロシア軍相手にして完勝できるとは誰も信じられないことでありましたので、少しでも優勢な時に講和を結び戦争を終えることが重要と考えてアメリカに仲介を依頼し、大勝利を収めて戦争を終えたのであります。

当時のアジアにおいて、中国は列強の争奪の中心でありました東北地区はその重要な戦略的位置を占め、南京政府と各派の軍閥は、中国共産党の指導下で新しく生まれた赤軍に対して包囲討伐を行い、蒋介石などの軍閥混戦の場ありました。日本が中国に侵略するまたとない機会を与えました。9月18日の夜、日本政府の政策をまったく無視して関東軍（大日本帝国陸軍の一つ）は満鉄沿線で爆破事件起こし、これを口実に重砲で瀋陽城北大営にあたる東北軍（中国の東北地方（旧満州）で1934年につくられた抗日のための軍事統一組織）の駐屯地を砲撃し満州事変を引き起こし、満州の諸都市を制圧し、さらに満州国の独立を1932年3月1日に実現させて建国宣言を行いました。明治憲法には責任内閣の制度が無く、内閣の規定もなければ内閣総理大臣の（首相）の規定もなく、また内閣が軍隊を指揮する権限もなく、議会が軍隊を監督する条文もない、これは明治憲法に規定された統帥権に関わる事項として全て天皇陛下の専権事項であるとして日本軍部は激しく反発し、憲法を盾にとり、政府の指示を受けることなく独断で兵を動かし、それを政府は統制できず、結果さえ良ければ勝手に軍隊を動かしても良いという先例を作り、以降政府が軍部を抑えることが出来なくなりました。

（つづく）